

滋賀の文化情報誌

デュエット

Duet

2023 夏 vol.146

特集

長浜城歴史博物館 開館40周年

私の出版体験

『ボク、ゴン太! 父と奥山暮らし 朽木針畑郷より ゴン太通信』

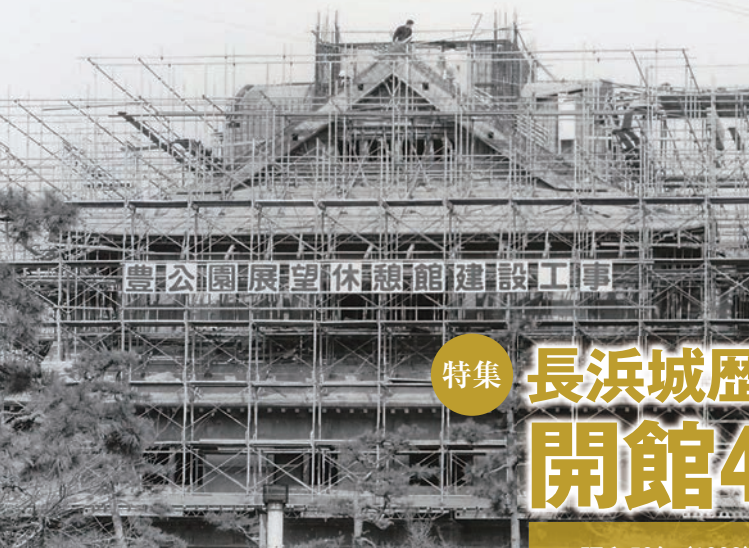
INFORMATION STATION 催し案内 2023 夏

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS サンライズ出版の新刊案内



建設工事は「豊公園展望休憩館」
という仮称で進められた

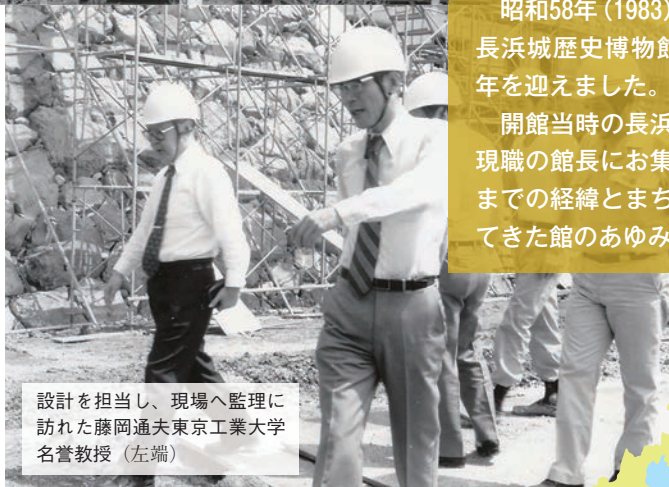


特集

長浜城歴史博物館 開館40周年

昭和58年(1983)4月5日に開館した
長浜城歴史博物館は、今年で開館40周
年を迎えました。

開館当時の長浜市職員、歴代および
現職の館長にお集まりいただき、開館
までの経緯とまちづくりの一翼を担っ
てきた館のあゆみをうかがいました。



設計を担当し、現場へ監理に
訪れた藤岡通夫東京工業大学
名誉教授(左端)

館の前庭にできた長蛇の列
(写真3点とも長浜城歴史博物館提供)



■長浜城歴史博物館

住 所 長浜市公園町10-10

連 絡 先 TEL 0749 (63) 4611

休 館 日 年末年始(12/27～1/2)、臨時休館あり

入 館 料 大人410円、小中生200円

アクセス JR 北陸本線「長浜駅」下車、西口から徒歩約
7分/北陸自動車道の長浜ICから車で約15分

取材/編集部 写真/辻村耕司



じつを言うと、「なんで、いまの時代に城を建てないといけないの?」といった気持ちでした。

市民の寄付から始まった「昭和の城普請」

- ※1 長谷久次（1910～1992）長浜市神照町にある浜縮緬製造会社「南久ちりめ」の3代目社長。
- ※2 長谷定雄（1915～2006）久次の弟。京都で縮緬白生地卸問屋「長谷」を経営する一方、大阪で貸ビル業を成功させる。

まず、長浜城歴史博物館との関わりを簡単にお話いただけますか。

三山 長浜城歴史博物館の建設にあたっては、長浜市の都市計画課、建築課、教育委員会がそれぞれ仕事を分担して進めていたのですが、それを総合的に調整する役割だった企画課で、私は課長補佐をやっていました。

吉田 私は建設当時は、長浜市の広報係長でした。平成12年（2000）から1年間、教育部長と博物館館長を兼務し、翌年に定年退職してからは館長専任で、通算4年8か月、館長を務めました。

太田 昭和61年（1986）から28年間、学芸員、平成26年（2014）から28年までの3年間、館長を務めさせていただきました。その後、5年間ほど市役所で働いて令和4年3月に退職しました。

福井 平成22年（2010）の合併にともない虎姫町教育委員会から長浜市に移りました。博物館友の会事務局の担当などを経て、令和3年（2021）4月から館長を拝命しております。

まず、開館の頃のように、三山さん、吉田さんからお話いただけますか。お二人とも当時は30代後半で、市役所内でも若手だったと思うのですが。

三山 私が20代後半の頃に市の方針が「お知らせ広報」から「政策広報」に変わって、もともと庶務課にあった広報係が市長公室という市長直属の部署内に移ったんです。私はそこで仕事をしていました。

やがて、市が総合計画を立てる準備として市のあり方を市民とともに論じる必要があると言われ出した頃に、私は企画課の係長になって、広報係をやっていた吉田君といっしょに、市の施策が正式決定する前から広報で市民向けに問題と課題をどんどんお知らせするようになったんです。

吉田 総合計画の策定と連動させて、「広報ながはま」で昭和52年（1977）の1年間、「わがまちを考える」と題して長浜の歴史と現在の課題を記事にしたところ大好評で、「もっとほしい」と言われて1000部増刷したこともありました。

三山 地域の歴史や文化に対する市民の盛り上がりを感じていたなかで、昭和53年（1978）10月に長浜市は第2次総合計画を策定して「活力に満ちた風格のあるまち」を将来目標に掲げたんです。計画の中では、地域文化を見直し、再創造する拠点施設として歴史民俗資料館をつくることも打ち出されていました。

すると、それを知った浜縮緬会社経営の長谷久次さんと、京都にお住いの弟の定雄さん（※1、※2）と、京都にお住いの弟の定雄さん

↓昭和52年に「わがまちを考える」というシリーズ記事を掲載した「広報ながはま」（右が1月号、左が4月号）



真勝寺前住職
三山元暎さん

1940年、米原市生まれ。長浜市の理事・経済部長を経て、1995年から2005年まで山東町長。



湖北アーカイブ研究所 所長
吉田一郎さん

1942年、長浜市生まれ。長浜市役所勤務のあと、長浜城歴史博物館館長、国友鉄砲ミュージアム館長などを歴任。



淡海歴史文化研究所 所長
太田浩司さん

1961年、東京都生まれ。長浜城歴史博物館学芸員、同館長、市民協働部次長、学芸専門監などを歴任。



長浜城歴史博物館 館長
福井智英さん

1972年、奈良県生まれ。虎姫町教育委員会を経て、長浜城歴史博物館学芸員、2021年4月より現職。

んが、「できれば、城郭型のものをつくってほしい」と言って、1億5000万円の寄付を申し出されました。

それを受けて、正式に豊公園に歴史民俗資料館を建てるということが決定したわけです。それ以前は建設場所は決まっておらず、長谷ご兄弟のご希望にそって豊公園の中の城跡の近くに決まったという経過です。じつを言うと、私自身は最初は冷ややか

だったんです。長谷さんの寄付後、募金委員会をつくるから事務局を担当しろと言われた時点では、「なんで、いまの時代に、城を建てないといけないの?」といった気持ちでした。資料館を建てることには賛成でしたが、天守型にする必要があるのかと。ところが、その年の雪の降る日、募金委

員会が置かれた市役所3階に長いコートを着たおじいさんが上がってきて、握りしめたお金を差し出して、「これで城をつくってほしい」とおっしゃるのを聞いたら、城に対する市民の思い入れの強さを実感してね。そうした例が他にもたくさんあって、私

は当初の考えを反省しました。結局、市民からの寄付はのべ8200人、合計金額4億3000万円にのびりました。

吉田 あんなことは後にも先にもないですね。私なども、市職員として寄付、自治会で寄付、仲間たちでも寄付と、何回も小口の寄付をしたものですから、完成したときには、市民同様に自分のマイホームができたような喜びを感じたものです。

三山 昭和56年(1981)に建設工事に着手しました。市民からの寄付は多額とはいえ、建設費にはとても足りなかったんです。そこで、まず都市計画課が、城郭型の展望台をつくるという名目で、建設省から豊公園施設整備事業2億円の国庫補助を引き出しました。

——だから建設中の工事現場の看板では、『展望休憩館』となっているわけですね。

三山 その一方で、教育委員会は資料館を建てる名目で県から補助金をもらったり、お金の出るところを探して、総事業費12億円を捻出したのです。

博物館がまちの顔になっていったヨーロッパの都市

吉田 当初の総合計画では「資料館」だったのを、当時の片山喜三郎市長に「博物館でないとかん」と直談判したのが三山さんです。ですから、三山さんなくして長浜城歴史博物館は存在しなかった。

三山 そうした行動の背景には、昭和54年(1979)11月に長浜市が姉妹都市提携をしているドイツのアウグスブルク市へ、初の市民親善使節団の一員として訪問した経験がありました。青年会議所の理事長を団長に28人のメンバーで、私は事務局長のような立場で市との交渉役、吉田君もいっしょでした。

アウグスブルクの市民と接する中で、ま

ちに対して誇りをもつ姿とともに、美術館や図書館では、建物自体の立派さはもちろん、その学芸員の活動に感動したわけです。その後、フランスのバリやイギリスも巡ったのですが、どこへ行っても、都市にはまちの顔となる博物館なり美術館がありました。それがまちの核になっているという印象を強く持って帰ってきたわけです。それで学芸員のいる博物館を建てたいという気持ちが高まって、片山市長に直談判したわけです。市長には、「そんなに言うんだったら」と納得してただけで。

——そのまま資料館の扱いだったらどうなっていたのですか。

↓模擬天守の屋根に葺かれた瓦には、寄付者の氏名が墨書された(長浜城歴史博物館提供)



※3 **アウグスブルク市** ヤンマーの創業者・山岡孫吉がディーゼルエンジンを発明したルドルフ・ディーゼル博士の出身地である当市に博士の記念碑を立てたことをきっかけに、長浜市と姉妹都市提携を結び、

※4 **藤岡通夫** (1908〜1988) 東京工業大学名誉教授。建築史家。城郭・遺構研究の蓄積をもとに、小田原城、熊本城などの外観復元にたずさわる。

三山 市の定年退職した人を2、3人置いて、ただ古い武具などが並んでいるだけの施設になっていたと思います。

城郭型になると決まってから、唐津城(佐賀県)、小倉城(福岡県)、大多喜城(千葉県)など、全国の城を見て回ったんです。しっかりした展示のお城もありましたが、例えば会津若松城(福島県)へいっしょに行ったら、当時の開設事務局長で、開館時に初代館長になれる三原榮一さんは、「こんなもん、あかん」とおっしゃっていました。

復元天守自体は、長浜城と同じ藤岡通夫先生が設計を手がけられたものでしたが、学芸員もいない単なる展示館になっていて、入場者もまばらでした。

——模擬天守の設計に関して、何かご記憶はありますか。

三山 設計のお願いも、私が藤岡通夫先生のお宅にうかがって交渉しました。藤岡先

長浜城歴史博物館の開館まで

年	月	出 来 事
昭和53年 (1978)	10月	長浜市総合計画で民俗資料館の建設が打ち出される
昭和54年 (1979)	11月	ドイツ・アウグスブルク市へ初の市民親善使節団訪問
昭和55年 (1980)	3月	長谷久次・定雄兄弟が1億5000万円を市に寄付
	4月	北陸自動車道の敦賀―米原間開通、長浜 IC 供用開始
	5月	城郭様式の歴史民俗資料館建設の構想を公表
	6月	藤岡通夫氏に設計を依頼 長浜城天守閣建設募金委員会が発足
昭和56年 (1981)	5月	建物本体工事が始まる
	10月	滋賀県で国民体育大会（びわこ国体）秋季大会開催
	11月	名称を長浜城歴史博物館に決定
昭和57年 (1982)	1月	長浜市が「博物館都市構想」を打ち出す
	4月	市役所内に職員12名からなる博物館都市構想のプロジェクトチームが発足
	8月	建物本体工事が完了 館内展示工事が始まる
昭和58年 (1983)	3月	展示工事、修景工事が完了 長浜市立図書館が開館
	4月	長浜城歴史博物館が開館 旧長浜駅舎鉄道資料館が開館 大阪城と姉妹城提携
	5月	(4/29～5/8) 豊公園を会場に「長浜出世まつり」開催

『長浜市制50周年記念誌 長浜物語』『長浜市史 8 年表・便覧』を参考に作成

生は、「他の城を復元したところは、残っていた図面をもとにしているけれど、長浜は何もないからそこそのおもしろさがある。天正時代に建った城を参考にしながら、論文でなく、小説を書くようなつもりでやらせてもらいます」とおっしゃっています。それと藤岡先生からは、城を建てると同じに、「長浜の文化財を見直すように」と強く言われた覚えがあります。それぞれの文化財と長浜城との関連から位置づけしな

——当時の天守型の施設という観光メ
ンで、ちゃんと学芸員を置くようなところ
は稀だったわけですね。

三山 そうです。長浜城も初めての計画では、市や県、国指定の文化財を置けるような施設ではなかったんです。重要文化財を展示できる施設にしてほしいと、市長にやかま

しくお願いしました。

当時の事情を説明しておく、ちょうど滋賀県で国体が昭和56年（1981）に開催されることになっており、その事務に加え、先代の長浜駅舎改築、城づくりの調整、企業誘致など手に負えないほどの仕事を企画課が抱えていました。振り分けていくなかで、長浜城については、まだ若造だった私が実質的な責任者みたいになっていたんです。市の重要施策として市長自ら陣頭指揮を取られたこともあって、やりやすかったというのがあります。

それと、吉田君もそうだったと思うのですが、市役所の内部だけでなく、市民に応援団がたくさんいたんです。商店街や青年会議所、ロータリーやライオンズクラブなどが、ことあるごとにゲストスピーチに呼んでくださって、よくうかがっていました。

そうした後ろ盾があったから、内部の会議でも発言できた面があります。

ただ、市が掲げた「活力に満ちた風格のあるまち」という将来目標については、市議会では「風格って、なんや？ わからんぞ」と、質問の嵐でした。もっと具体的な方向性を示すために、市役所の職員でプロジェクトチームをつくることになって、そのまとめ役もやらせていただいていた吉田 私もそのチームのメンバーで、三山さんから薫陶を受けて、町の中に飛び込んでいって若い実業家の人たちとの接点が多かったので、のちのち力になってくださいました。

三山 一方で、大学の先生にもずいぶんお世話になりました。一番影響を受けたのは京都府立大学の吉野正治という都市計画が専門の教授です。長浜城歴史博物館との直接的な関わりはないのですが、市の総合計画に企画・立案の段階からアドバイザーとして関わってくださった吉野先生にはいろいろな影響を受けたように思います。

——まちづくりの面ですか。

三山 はい。例えば市立長浜小学校の校舍を昭和39年（1964）に新築していますが、市にお金がないから、表の駅前通りに面した土地を滋賀銀行や日本生命に売って、建築費の一部にあてたんです。小学校の校舎から銀行や保険会社の建物を吉野先生がご覧になって、「三山さん、これは何ですか。表から見たらきれいだけども、建物の裏は打ちっぱなしじゃないですか。これを毎日小学生が6年間見ているんですよ。これでまちづくりができますか」と言われたときは、ショックでした。

※5 吉野正治（1929～1996）工学博士。京都府立大学生活科学部教授などを歴任。『都市計画とはなにか』など著書多数。

文化というなら、そういった点にも気配りをして取り組むべきだということを教わりました。博物館の場合も、建物も大切だけど、そこにいる職員、そして発信する力がないといけないということは、吉野先生から教えてもらったような気がしますね。

——開館当初では、太田さんは何か記憶がありますか。

太田 僕は、昭和61年（1986）から3年間は臨時職員の形で入ったので、開館前や直後のことは知らないのですが、やっぱりいくつかの卓見といえるものがあつたと思います。長浜の場合は、天守型の博物館にしたことが、その後の集客面で、非常に有利に働いた。それと同時に博物館施設にしてくださったことが、その後の方向を決定づけたと思います。

いわゆる模擬天守にあたる施設は日本全国にたくさんあつて、私もかなり行きましたが、学芸員がいてともに博物館として稼働しているのは大阪城天守閣、それから上山城郷土資料館（山形県）、福山城博物館（広島県）ぐらいだろうと思います。名古屋城や広島城にも学芸員がいますが、鉄筋コンクリート造の模擬天守というと、多くは中に古い甲冑などを並べただけの施設で、長浜城もそうなる可能性があります。

長浜を変えた「博物館都市構想」

太田 話をもどすと、もう一つ重要だったのは、先ほど三山さんのお話に出てきた市役所職員のプロジェクトチームが昭和59年（1984）に策定した「博物館都市構想」です。以後も長浜市はいろいろな施策を打ってきましたが、「市民総学芸員」という目標を掲げて地域の歴史・文化を学び、市民と行政で町並み整備による個性あるまちづくりに取り組んだ、この構想に勝るも

最近も名古屋城の木造天守を再建する計画がありますが、個人的には冒険だと思っています。木造で復元された天守はいくつもありますが、成功している例はあまりありません。中を展示室にはできないので、企画の打ちようがないし、使い勝手も悪いと思います。

むしろ近年は、復興天守や模擬天守が新たな文化財として扱われようとしています。昭和6年（1931）築の大阪城天守閣がすでに登録文化財になっていきますからね。これらがまちづくりの核として見直される時代になってきている現在から見て、本当に卓見だったなと思っています。

——ただ、天守形5階建ての施設は、展示にあたって難しい面もあるのでは。

太田 展示をするには、四角い箱が一番やりやすいんです。展示は基本的に右から左に来館者を誘導するのですが、長浜城は真ん中に階段があつて、動線をつくりにくいですね。また、入り口が狭いので、大きい資料が入らない。NHK大河ドラマ「江〜姫たちの戦国〜」の特別展で、東京にある祐天寺所蔵の江の位牌を納めた旧崇源院霊屋宮殿を展示しようとしたら、大きすぎて入らず、第2会場の曳山博物館に展示したということもありました。

のはなかったのではないのでしょうか。

三山 先日、黒壁の現会長で、長浜のまちづくりにも貢献されてきた高橋政之さんが自分史（12ページ参照）をまとめられ、そのお祝いの出版記念会が開かれました。その席で、知己の何人かから「長浜のまちづくりがうまくいったのは、博物館都市構想があつたのが大きい」と、声を掛けてくださったのが、すごくうれしかったです。

➡開館を記念して豊公園でおこなわれた「第1回長浜出せまつり」のようす（長浜城歴史博物館提供）



吉田 博物館都市構想がなかったら、長浜を観光面で復活させた黒壁もなかったです。太田 博物館と文化遺産がまちづくりの中心になることを確立してくれたという意味で、とても重要だったと思います。

——昭和58年4月5日の開館、それに続く記念行事は大盛況だったそうですね。

吉田 開館初日の入館者が7000人、4月29日から5月8日まで、ゴールデンウィークの10日間、豊公園を会場にして催された「第1回長浜出せまつり」には、約52万人の出入がありました。

この成功の影にはマスコミに向けた三山さんの働きかけがあつたのですが、とにかく湖周道路が大渋滞になるほどで。この年の全国のゴールデンウィークの出入では全国7位になりました。

三山 あとで、叱られたんですよ。

——混雑しすぎたからですか？

三山 いえいえ、50万人も人が来ているのに、町の中に人が行かなかった。「商店街のほうは閑古鳥が鳴いていた。どうしてもくるのや」と叱られて、まつりが終わると同時に商工観光課へ異動させられたんです。それは、三山さんの能力を見込んでと

いうことだと思えます。開館当初の展示内容を見ると、旧長浜市域や戦国時代にこだわらず、湖北の歴史を古代から近代までとどつた展示ですね。

三山 旧長浜市の施設でしたが、初めから

博物館のレベルアップと市民との協力

——太田さんが学芸員として活動なさつていた時期に移つてよろしいでしょうか。

三山 私は、長浜城を博物館として育ててくれたのは、太田さんだと思っています。吉田 私です。太田さんの功績は本当に大きい。

太田 30 年近く働いていたなかで、目指してきたことは二つありました。一つは博物館としてのレベルを保つていくこと。すでに建設の時点で、文化庁などと協議していただいて、重要文化財などが展示できる施設になっていたのですが、福井正俊さんという事務方のお力もあって、昭和 62 年（1987）に登録博物館となりました。

それから、平成 8 年（1996）に文化庁が公開承認施設という制度をつくったんです。国宝や重要文化財の公開促進を目指したもので、公開にあたって、事前申請の必要がない施設を承認する制度で、長浜城は平成 8 年の制度発足と同時に承認施設となりました。

事実上、この制度は博物館のランクづけになっていて、所蔵者によつては公開承認施設かどうかで貸し出しの可否を決めてお

※6 登録博物館 博物館法で定義された事業をおこない、館長・学芸員を置き、年間 150 日以上の開館などの条件を満たして、博物館登録原簿に登録された施設。

※7 公開承認施設 条件を満たした施設と国指定文化財の公開実績を有し、文化庁長官の承認を受けて、国宝や重要文化財の公開手続きの簡素化が認められている施設。

湖北一帯の歴史を紹介することは決まっていた。

吉田 平成の合併以前から、文化圏や生活圏として「湖北は一つ」という住民意識はありましたからね。

られるところもあります。つまり、公開承認施設になっておかないと、よい特別展はできません。

そのためには、学芸員が一定数いないといけないし、企画展・特別展も年に何回やらないといけないといった規定があります。施設内の空気環境面では、文化財活用センターが推奨する検査薬を用いて、コンクリートなどから出るアルカリや酸の濃度を測り、基準をクリアする必要があったり。

福井 公開承認施設の数、現在、全国で約 100 館、そのうち滋賀県は 8 館と非常に多いんです。

太田 普通は県立の博物館と美術館の 2 館だけという感じなのですが、滋賀県は県立市立、私立ともがんばつて承認施設になっています。長浜城は、合併前で人口 5 万人規模だった市立博物館が承認施設になったのですから、手前味噌になりますが、誇つていいことです。

ただ、そのレベルを保つために文化庁からの注文も多いので、私の後の秀平文忠館長や福井館長はとても苦労したと思います。——長浜城の企画展には、全国向けのものと、市民向けのものと 2 種類があるように思いますが、意識しておられますか。

※8 滋賀県の公開承認施設 滋賀県立安土城考古博物館、長浜城歴史博物館、野洲市歴史民俗博物館、彦根城博物館、大津市歴史博物館、滋賀県立美術館、MIHOMUS EUM、観峰館（平成 5 年 4 月現在）。

太田 両者がバランスよく開催できるように意識していました。全国向けの、特に戦国時代をテーマにした企画展はやはり入館者数が見込めます。一方、郷土性が高い企画展は、あまり人は入りませんが、市民のために必要という考えです。

三山さんと吉田さんが目指された、博物館運営を市民にどうやって開いていくかという課題にも関わるのですが、長浜の場合、全国向けの入館者が見込める企画展や NHK 大河ドラマに合わせて開催してきた博覧会 4 回によって、博物館友の会の活動がうまく盛り上がったという事例があります。

平成 8 年に 1 回目の「北近江秀吉博覧会」、2 回目が平成 18 年の「北近江一豊・千代博覧会」、3 回目が平成 23 年の「江・浅井三姉妹博覧会」、4 回目が平成 26 年の「黒田官兵衛博覧会」とあって、2 回目の「一豊・千代博」の時に友の会の大改革をおこなったんです。

それまでは、会員の活動が受動的だったので、入館者への展示案内をする「一門衆」というグループをつくってもらいました。その後は、ミュージアムショップの運営も友の会にお願いして、図書やグッズの販売収入が友の会の財政基盤の一つになっていきました。

友の会会員が直接文化財に触れる部分に関わってもらうのは難しいので、講演会や見学会のサポートを担当してもらう「黄母衣衆」というグループもつくってもらいました。

——本誌 138 号で友の会の皆さんにお話しいただいた時もおっしゃっていましたね。

太田 それから、これは自慢話みたいになつてしまいましたが、平成 9 年（1997）の特別展「小堀遠州とその周辺」では、それをきっかけに長浜で遠州流の茶道が再興

されました。特別展というのはどうしても自己完結的というか、学芸員が自分の成果を発表するだけの場になりがちなので、こうした動きにつながったことは個人的にかなり大きな思い出です。

また、吉田さんが館長の時期では、平成15年（2003）の特別展「江戸時代の科学技術 国友一貫齋から広がる世界」と、それに関わる事業が、民間や大学との関わりという点で大きかったと思います（本誌145号参照）。

企画展の5、6年前から京都大学の天文や工学の研究者の方たちとつながりができ、文科省のもとで進められていた全国的なプロジェクトに長浜城歴史博物館も関

教育委員会から首長部局への移管

——平成18年（2006）と平成22年の合併で新長浜市が誕生しました。福井さんは、旧虎姫町の教育委員会におられたわけですが、いかがですか。

福井 虎姫町時代にも、資料調査や活動で長浜城歴史博物館と関わることはあったのですが、合併後に博物館への配属となって改めて思ったのは、長浜城歴史博物館は、市のシンボリックな存在であるということだと思います。とくに館長になってみると、特別な存在として見られることをすごく実感しています。

——福井さんの就任時は、「初の女城主」といった報道もありましたね。

福井 お城の形をしているからというばかりでなく、開館以来、地域に密着した活動が続けてきたからなのでしょう。市役所内の職階はそんなに高いわけではありませんが、例えば青年会議所の新年会のような場に、長浜市長といっしょに館長も来賓として呼ばれることもあります。

わっていききました。

吉田 当時、京都大学の先生や国立科学博物館の方の一貫齋への評価が、地元の私たちが考えていた以上に高かったんです。

太田 富井洋一教授と松田清教授は、一貫齋が空気銃を製作した時に手本としたものと同型の現物が、オランダ・デルフト市の王立陸軍武器博物館にあるということをやき止め、現地まで行って、その空気銃を借りてきてくださったんです。輸送費などの経費も京大が負担してくださって、一応銃ですから手続きもかなり難しかったと思うのですが。

これを長浜城で展示するなんてことは、私たちだけではとてもできませんでした。

太田 実際の職階をもっと上げてほしいぐらいです。長浜を代表する人物の一人として扱ってほしいですね。

吉田 私なども、初めてお会いした方には元長浜市助役という肩書きより、元長浜城歴史博物館館長の方が値打ちがあるように感じます。

——最近の変化として感じておられることはありますか。

福井 これは全国的な流れでもありますが、博物館の所管が教育委員会から首長部局に移ったことは大きな変化です。

太田 そう。私が館長になった平成26年（2014）に市役所内に「歴史文化推進室」がつくられて、館長はその室長も兼ねるようになったんです。2年後には首長部局の市民協働部に新設された「歴史遺産課」に所属することになりました。

福井 そして、今年度は産業観光部の文化観光課に「歴史まちづくり室」が設けられて、市内の博物館・資料館が所属しています。

※9 首長部局

地方公共団体の組織のうち、首長（市町村長）の指揮監督を直接受け、人事権が一般職員にまでおよび部局。教育委員会は首長から独立した機関と位置づけられ、これにあたらない。

首長部局になったことで、市の政策に直接、関わりやすくなった一方で、求められることも多くなって、歴史のことを研究して、それを皆さんに成果として示すだけではいけなくなりました。

もう一つの変化として、現在、豊公園の再整備計画が進められています。とくに駅から長浜城までのルートがすぐきれいになりました。長浜駅から見て、以前の長浜城は木々に隠れていたのが、今はしっかりと動線が確保され、目立つようになりました。

太田 いま話に出た首長部局になったことで、市のさまざまな施策に、博物館がどうやってリンクしていくか。さらには、市民の活動の場とリンクする機会を探っていくかが重要になっています。

今年の長浜450年戦国フェスティバルも市民の動きとリンクして、歴史を活用した地域づくりの機会になったらよいと思います。

吉田 まちの活性化は、住んでいる者が自分の生まれ育った地域に対して誇りと自信を持つことから始まると思います。博物館の企画展や特別展が、そのきっかけになってもらえばと思いますね。

三山 最近とはとくに、少子高齢化で地域に根ざしたいろいろな祭りや伝統行事の継承が難しくなっています。曳山祭はもちろん、小さな行事などの歴史にもスポットを当てていただければ、それが刺激になって、また新しい展開も起こり得るのではないのでしょうか。ぜひ、お願いしたいところです。

——本日は興味深いお話をありがとうございました。（2023.7.11）

『ボク、ゴン太！』

父と奥山暮らし

朽木針畑郷より ゴン太通信

榊始さん（滋賀県高島市在住）

プロフィール

1956年、長崎県生まれ。大阪市のミニシアター支配人などを経て、5年の主夫生活の後、高島市朽木小川の山小屋に移住。フォトエッセイストとしてブログを更新中。



自宅の庭「オクヤマガーデン」で

紙媒体でしっかり残しておきたい

榊始さんは2000年に大阪市から高島市朽木針畑地区の小川集落に移住。柴犬のゴン太も連れてきた。「ゴン太くんのおかげで気軽に声を掛けてもらえ、地域に溶け込みやすかった」。愛犬というより相棒として助けてくれたという。

知人向けに発行するミニコミ紙「朽木小川より」にゴン太が一人称で語るコーナー「ゴン太通信」を設け、山里での出来事などを伝えた。

そんなゴン太が2013年5月に18歳で亡くなった。「ゴン太通信」を一冊にまとめようとサンライズ出版に持ち込んだ。加筆して写真も多く入れ

たい、書店でも買えるようにしたい……さまざまな要望を伝えた。2014年4月、一周忌を前に、判型やデザインなども希望どおりの本に仕上がりに、集落30世帯に配ったところ、とても喜ばれたという。

2020年12月には、妻の治子さんが地域の高齢者からの聞き取りをまとめた『聞き書き朽木小川 しこぶちさんと奥山暮らし歳時記』を出版。榊さんが撮った写真を取めた。

「やはり紙媒体でしっかり残しておきたいですね」。ブログやフェイスブックを毎日更新しつつ、紙媒体の「朽木小川より」も毎月発行を続けている。



滋賀の西端、朽木針畑郷。柴犬のゴン太の語り口で山里暮らしの日々をつづるフォトエッセー



妻の著書でも撮影を担当。ともに書店にて発売中。
1650円/1760円（税込）

若干名様限定

／ 続々問い合わせ承り中！ ／

出版体験モニター募集

家族のこと、自分のこと、
大切な思い出を
カラーで残しませんか

予価33万円（税込）をモニターに
限り半額でご提供



デザイン例
A5判
オールカラー32ページ
上製本20冊

載せたい写真を用意する

五つの質問に答える

聞き取り取材で、スタッフが原稿を作成

内容をチェックして修正

完 成

お問い合わせ

サンライズ出版

モニター募集係（竹内）

TEL 0749-22-0627 FAX 0749-23-7720

E-mail info@sunrise-pub.co.jp

※モニターは定員になり次第
締め切らせていただきます

よばしています。

本展では、近江に築かれた天下人の城の特徴や意義を、発掘調査で出土した資料やパネルで紹介します。

入館料：大人600円、高大生360円、小中生無料
会期中の休館日：8月21日(月)、8月28日(月)、9月4日(月)、9月11日(月)

■企画展関連講座 「家康と永原御殿」

9月16日(土) 13:30～15:00

講師：福永清治氏(野洲市教育委員会文化財保護課)

参加費：300円 **定員：**各回100名(受付先着順)

お申込み方法：往復はがきによる事前申込制

(各回それぞれにお申込みが必要)

お問い合わせ先：TEL 0748 (46) 2424

企画展 今森光彦 里山 水の匂いのするところ

開催中～9月18日(月・祝)
滋賀県立美術館



今森光彦《船着き場の朝》2000年
©Mitsuhiko Imamori

滋賀県に生まれ、数々の賞を受賞している写真家・今森光彦の写真展を開催します。

本展では、今森が長年撮り続けてきた滋賀の「里山」を通して「水」の循環に着目します。水は奥山から人々の住処を流れ琵琶湖へと戻り、大気を通して再び大地へと還ってゆきます。里山に宿る多様な生態系と土壌となっている豊かな環境は、私たちの忘れてしまった原風景を水の匂いとともに思い出させてくれるかもしれません。

入館料：一般1200円、高大生800円、小中生600円
休館日：月曜日(9月18日は開館)

お問い合わせ先：TEL 077 (543) 2111

秀勝の誕生をきっかけとしますが、早世してしまいます。次に織田信長の五男で、秀吉の養子となった次秀勝が現れ、秀吉が不在中の長浜城でその代理として手腕を振るいました。この2人目も若くして没し、秀吉の姉・智(日秀尼)の次男、小吉秀勝が後継候補となりますが、文禄の役で渡った朝鮮において病死してしまいます。本展では、これら3人を通して、秀吉が「秀勝」という名前にこだわった理由を探ります。

入館料：大人600円、小中学生300円

休館日：会期中無休

■記念フォーラム

「羽柴秀勝の再評価」

9月2日(土) 13:30～15:00

会場：曳山博物館(伝承スタジオ)

講師：尾下成敏(京都橘大学教授)

太田浩司(曳山博物館館長)

定員：30名(要予約) **受講料：**無料

■展示説明会

8月26日(土) 13:30～

お問い合わせ先：TEL 0749 (65) 3300

第68回企画展 発掘された近江Ⅲ —信長・光秀・秀吉・家康の城—

開催中～9月18日(月・祝)
滋賀県立安土城考古博物館



坂本城 軒丸瓦、軒平瓦
(大津市埋蔵文化財調査センター蔵)

滋賀県(近江国)には1300もの城が築されましたが、そのなかには、天下人となる織田信長、明智(惟任)光秀、羽柴(豊臣)秀吉、徳川家康が自らの居城として、あるいは天下を治めるために築かせた城があります。これらの城は、近江にとどまらず日本各地に築かれる城に大きな影響をお

長浜城歴史博物館開館40周年 長浜築城・開町450年記念特別展 長浜城主・秀吉と歴代城主の変遷

開催中～9月18日(月・祝)
長浜城歴史博物館



ふじごしんかもんくろきらしやじんぼおり
富士御神火文黒黄羅紗陣羽織
伝豊臣秀吉所用(大阪城天守閣蔵)

長浜城歴史博物館が開館40周年を迎えた今年、羽柴秀吉(のちの豊臣秀吉)が長浜城とその城下町を造って450年にあたります。これを記念し、本展では、初代長浜城主・秀吉から、その後の城主を務めた山内一豊や徳川家康の家臣・内藤信成ら歴代長浜城主の事績に、全国各地に伝わる資料を通じて迫ります。

入館料：一般(高校生以上)410円、小中生200円

休館日：会期中無休

お問い合わせ先：TEL 0749 (63) 4611

長浜城歴史博物館開館40周年 長浜築城・開町450年記念特別展 秀吉と三人の秀勝たち

開催中～9月18日(月・祝)
長浜市曳山博物館



木造於次秀勝像
(京都瑞林院蔵)

羽柴秀吉の後継者候補には、「秀勝」という名の人物が3人いました。1人目の秀勝は秀吉の実子とされ、長浜曳山祭はこの



湖北の若大将 小谷の龍

ようの
丁野永正 著
B6判並製本 総400頁 頒価1500円
問合先 東近江市建部瓦屋寺町 134-25(著者)
浅井氏三代を描いた小説。巻末には、ストーリーを江州音頭の歌詞に書き換えた歌も収録。
へ救いは唯一小谷城 籠城するより道はなく
絶体絶命覚悟する—— (2023.6.10刊)



乗り鉄ときどき城巡り 巻之五・巻之六 北陸・東海編(後)、近畿編(前)

佐渡 滋 著
A4判並製本 各総128頁 非売品
問合先 大阪府吹田市五月が丘東6-B503(著者)
城好きの著者が、鉄道に揺られて各地の城跡を巡った写真紀行。巻之五は愛知・岐阜・三重の19篇、巻之六は彦根城、坂本城跡などを含む滋賀・京都・大阪の21篇を収録。 (2022.10.21・2023.6.26刊)

BOOKS 特別展示

(仮題) 滋賀県ゆかりの自費出版物



長浜市立長浜図書館での
展示風景(すでに終了)

守山・長浜・米原市立図書館に引き続き、「日本自費出版文化賞」(主管:NPO法人日本自費出版ネットワーク)受賞・入選作品と滋賀県ゆかりの自費出版物を展示します。

9月6日(水)~9月29日(金) 予定
会場 ● 東近江市立能登川図書館

9月13日(水)~9月17日(日) 10:00~17:00
会場 ● 滋賀県立図書館談話室*

※談話室にはサンライズ出版の社員が常駐しますので、ご相談・ご質問に应对いたします。

手にとってお読みいただけますが、貸し出しは館の所蔵図書のみとなります。

「日本自費出版文化賞」についてはこちら→



小社が承った書籍を応募される方はご相談ください。さまざまなアドバイスをいたします。

自費出版に関するお問い合わせ
サンライズ出版 TEL 0749 (22) 0627

■対話の森

大山竜(原型師) × 館長 松井利夫
10月8日(日) 14:00~15:30

会場: 信楽産業展示館信楽ホール
参加費: 無料(要事前申込)
お問い合わせ先: TEL 0748 (83) 0909

企画展

関東大震災から100年
災害と井伊家伝来資料

9月1日(金)~10月4日(水)
彦根城博物館



関東大震災罹災品 湖東焼
(彦根城博物館蔵)

大正12年(1923)9月1日、東京や横浜などに甚大な被害をもたらした関東大震災。これによって東京本邸にあった井伊家伝来の美術品と古文書の多くが、火災によって失われてしまいました。

関東大震災を中心に、井伊家伝来資料に関わる災害の歴史と、いかにしてこれらが守り伝えられてきたかを振り返ります。
入館料: 一般500円、小中学生250円
休館日: 会期中無休
お問い合わせ先: TEL 0749 (22) 6100

特別展

岡本太郎 アートの夢

—陶壁・陶板・21世紀のフィギュア造形—
パート1: 開催中~9月24日(日)
パート2: 9月30日(土)~12月17日(日)
滋賀県立陶芸の森陶芸館



近江化学陶器株式会社
原型...岡本太郎「むすめ」
1960年代中頃(個人蔵)

芸術家・岡本太郎は、「一般大衆にじかにぶつかる、社会に開かれた芸術を実現したい」と記し、常滑、刈谷、信楽などの産地でパブリックアートや量産品に取り組みました。

本展では、〈芸術の大衆化〉をテーマに、近代の建築装飾陶器と岡本太郎らの作品を紹介。またフィギュア造形の世界や壁画の可能性をあわせて取り上げ、岡本太郎が思い描いた夢の先、21世紀アートの息吹を見つめます。

入館料: 一般700円、高大生530円、中学生以下無料
休館日: 月曜日(祝日の場合は開館し、翌日休館)

■ギャラリートーク
8月20日(日)、10月15日(日)、11月19日(日)
いずれも13:30~
参加費: 無料(申込不要)

古代の郡役所と豪族

栗太郡衙岡遺跡発掘35年

栗東市教育委員会、(公財)栗東市スポーツ協会 編
四六判並製本 総180頁 2200円(税込)

全国的にも貴重な奈良時代の郡衙(郡役所)遺構が見つかった栗東市の岡遺跡発掘から35年を記念し、2022年6月に催されたシンポジウムの講演と討論を書籍化。



改訂版 近江の芭蕉

松尾芭蕉の世界を旅する

いかいゆり子 著

A5判並製本 総274頁 2420円(税込)

近江を愛し、近江に眠る松尾芭蕉が近江で詠んだ93句すべてを解説し、句碑59基を写真と地図をまじえて紹介。県内各地の文学散歩へといざなう。初版発行後に判明した事項を改訂。



寺村晴雄 日本画集

清水知子 編

AB判並製本 総112頁 頒価3000円

問合先 彦根市外町 291-7 (編者)

県立高校で美術教諭を勤めた後、日本画グループ「点睛の会」を立ち上げ指導にあたり、昨年3月に亡くなった日本画家・寺村晴雄の作品と素描を収録。(2023. 6.11刊)



炭鉱の軌

南回歸線プロ 撮影

B5変形並製本 総52頁 非売品

問合先 大阪府茨木市戸伏町6-14 竹谷俊彦

坑豊でも屈指の採掘量を誇り、最後まで操業していた貝島炭礦が閉山した昭和51年、六坑駅-筑前宮田駅を結んだ貝島炭礦専用線の機関車を撮影した写真集。(2023. 7.29刊)



淡海文庫46

増補版 浅井長政と姉川合戦

その繁栄と滅亡への軌跡

太田浩司 著

B6判並製本 総214頁 1650円(税込)

小谷城の落城から450年の今年、「浅井・朝倉同盟はなかった」と「地形・絵図類から探る姉川合戦」の2節を追加して贈る増補版。



看護実践に生きているナイチンゲールの

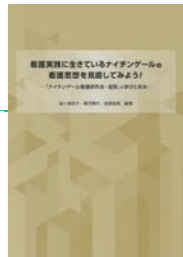
看護思想を見直してみよう!

ナイチンゲール看護研究会・滋賀の学びと歩み

城ヶ端初子・桶河華代・高島留美 編著

B5判並製本 総120頁 2200円(税込)

発足から8年目を迎えた「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」が、看護実践・看護教育の場で取り組んできた自主学習会活動を総括。



わが人生の歩み

高橋政之 著

A5判上製本函入 総238頁 非売品

問合先 長浜市三ツ矢町 10-1 (著者)

大阪の飯金屋で修行した父が昭和15年に創業した高橋飯金(現、高橋金属)を継ぎ、オリジナル商品の開発も行う金属加工メーカーとなった歩みを振り返る。(2023. 5. 7刊)



鈴鹿山麓の小さな村のよもやま話

鍋家渡支雄 著

A5判上製本 総286頁 非売品

問合先 甲賀市土山町黒川2374 (著者)

昭和14年生まれの著者が、鈴鹿山地の南西に位置した旧山中村(昭和30年、土山町に合併)における子供時代の記憶、さまざまな民俗行事、民話などをまとめた一冊。(2023. 7.10刊)



表紙写真 昭和58年(1983)の長浜城歴史博物館開館時に催された「第1回長浜出世まつり」のようす(長浜城歴史博物館提供)

編集後記 三山さんは、3ページの肩書きのとおり、米原市内の浄土真宗寺院の僧侶でもあります。先日、三重県総合博物館の企画展「親鸞と高田本山」を見てきたそうで、少し前に京都国立博物館であった特別展「親鸞一生と名宝」とは違うおもしろさがあったとのこと。太田さんによると、高田派は親鸞の弟子の系統ですが、血脈でつながる東西本願寺と同じく親鸞のものがよく残っているのだとか。地方には宝が眠っていると、改めて思ったそうです。㊦

Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1

サンライズ出版株式会社 Duet 編集部

TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先